

報道関係各位

2026年7月13日

ガソリンやオイルなどの可燃性液体(非水溶性)による油火災に対応する
PFAS(有機フッ素化合物)フリー合成界面活性剤泡消火薬剤を発売
～水成膜泡消火薬剤に匹敵する高い発泡性能と消火性能を実現～

株式会社モリタホールディングス

株式会社モリタ(本社:兵庫県、代表取締役:城賀本 守)は、ガソリンやオイルなどの可燃性液体(非水溶性)による油火災に対応するPFAS※フリーの合成界面活性剤泡消火薬剤「PureVeil(ピュアヴェール)」を開発し、2026年7月より販売開始しますので、お知らせいたします。

※人工的に作られた有機フッ素化合物 ペルフルオロアルキル化合物およびポリフルオロアルキル化合物の総称。PFASの中でもPFOS、PFOA、PFHxSの3物質群は、国際的には残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約(POPs条約)により規制され、日本国内では化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)に基づき、製造・輸入が原則禁止され、使用も制限されています。



PFASフリーの合成界面活性剤泡消火薬剤「PureVeil(ピュアヴェール)」

1. 背景・概要

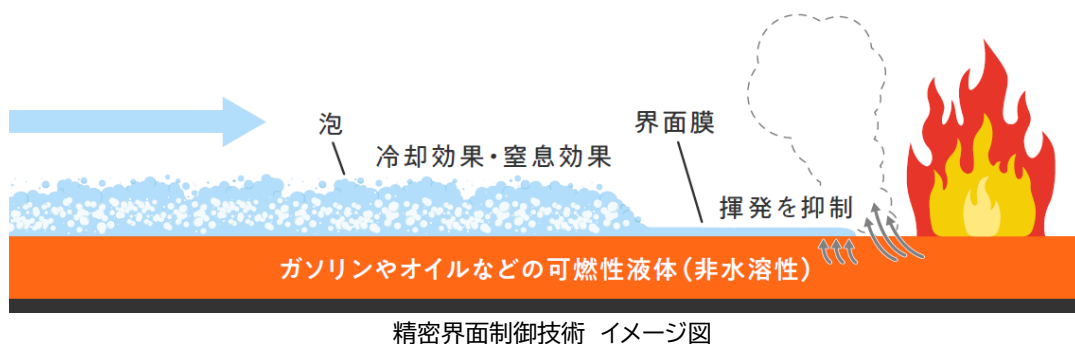
ガソリンやオイルなどの可燃性液体(非水溶性)による油火災に対しては、一般的に泡消火薬剤が使用されています。従来の泡消火薬剤は、消火性能を高めるためにPFASが含まれているものもありますが、人体や環境への影響から、世界的にPFASを含む製品に対する規制が強化されています。国内においても、すでに備えられているPFASを含む泡消火薬剤については一定の条件下で消火活動に使用することが認められているものの、更新時期を迎える既存泡消火薬剤の代替品確保や、今後の安定供給に対する懸念が高まっており、PFASを含まない代替品の開発が急務となっていました。

このような課題に対し、PFASを一切含まない、環境性能と消火性能を両立した泡消火薬剤を開発しました。本製品は、ガソリンやオイルなどの可燃性液体(非水溶性)による油火災に加え、木材や紙などが燃焼する普通火災にも対応しています。本製品の導入により、既存泡消火薬剤の供給不安を解消し、万が一の火災に対しても確実な消火体制の維持に貢献します。

2. 特長

・高い消火性能

複数の界面活性剤の相乗効果を利用し、油面上に緻密かつ強固な界面膜を形成する「精密界面制御技術」を開発しました(特許取得済)。これにより、油面上における速やかな流動展開性と、優れた再燃防止性が確保されています。加えて、泡の安定性および耐火性にも優れており、PFASフリーでありながらも、水成膜泡消火薬剤に匹敵する高い発泡性能と消火性能を発揮します。



精密界面制御技術 イメージ図

放射シーン: <https://www.youtube.com/watch?v=Bw2j2XbdaxM>

・幅広い火災に対応

本製品は、ガソリンやオイルなどの可燃性液体(非水溶性)による油火災(B火災)に加え、木材や紙などが燃焼する普通火災(A火災)にも対応しています。低発泡から高発泡まで幅広く対応可能なため、可燃性液体(非水溶性)の流出火災や、倉庫での火災などさまざまな用途に使用できます。

<B 火災(油火災):低発泡による消火試験>

低発泡により泡が油面上を素早く広がり、燃料表面を確実に覆うことで可燃性蒸気の発生を抑制し、高い消火性能と再燃防止性能を発揮します。そのため、ガソリンや軽油などの可燃性液体(非水溶性)による火災に有効です。



点火



放射



完全消火

<A火災(普通火災):高発泡による消火試験>

高発泡により短時間で火災区域を泡が覆うため、倉庫や物流施設などにおける普通火災にも有効です。



点火



放射



完全消火

・凍結リスクを軽減

-10℃までの低温環境に対応しているため、冬期における泡消火薬剤の凍結リスクを軽減します。

3. 今後の展開

PFASフリー泡消火薬剤のラインナップ拡充を推進し、PFAS含有の泡消火薬剤からの置き換えに貢献してまいります。

当社は、環境問題を含む社会的課題の解決を事業戦略に組み込み、安全で住みよい豊かな社会に貢献し、感謝され、愛される企業を目指してまいります。

4. 仕様

名 称	Non-PFAS 合成界面活性剤泡消火薬剤 PureVeil(ピュアヴェール)
種 別	泡消火薬剤
型 式	合成界面活性剤泡 3%(−10℃～+30℃)
型 式 番 号	泡第2026～8号
内 容 量	20リットル(1缶)
希 釈	淡水、海水



本件に関するお問合せ先
株式会社モリタホールディングス グループ戦略本部 経営企画室 広報課 担当:三木
TEL:03-6400-3485